

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北海道)	◎	－	－	－
	○	一般小売店〔土産〕（経営者）	お客様の様子	・緊急事態宣言下ではあるが、一部の客についてはワクチンを打った安心感から、若干動きが増えている。特に9月の大型連休の際はかなり客が増えた。少しずつではあるが、少数人数での団体旅行もみられるようになってきた。
	○	百貨店（売場主任）	単価の動き	・9月の売上を前年比でみると7～8月と比べて改善している。新型コロナウイルス新規感染者数が減少してきていることで客の購買心理が上向いており、そのことが来客数増加につながっている。特選品や宝飾品などの高額商材の動きも良い。
	○	百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・緊急事態宣言が延長されたが、当地の新型コロナウイルス新規感染者数が減少していることから、来客数が徐々に増えてきている。買上客数も増加傾向にある。
	○	百貨店（マネージャー）	来客数の動き	・来客数の前年比をみると、6月が82%、7月が74%、8月が80%、9月が28日時点で91%となっており、緊急事態宣言下ではあるものの、回復傾向になってきている。
	○	家電量販店（店員）	来客数の動き	・9月前半は残暑が厳しかったこともあり、来客数が少なかったが、後半になるとプレミアム付商品券の発行に伴い土日を中心ににぎわいがみられた。
	○	その他専門店〔医薬品〕（経営者）	お客様の様子	・接種を希望する高齢者へのワクチン接種率がほぼ100%まで到達したことで、若干ではあるが、客の安心感が増している。前年は新型コロナウイルスの影響でバブルのような状況であったため、単純には比較できないが、客の相談や購買が回復してきているという手応えを感じている。
	○	観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・緊急事態宣言下ではあるが、一部のコンサートイベントが催行されたことがプラスとなった。価格訴求型の安価な商材に個人需要が反応していることもプラスであった。
	○	タクシー運転手	販売量の動き	・新型コロナウイルス感染拡大に伴い発出された緊急事態宣言によって外出自粛の動きが強まった。その上、宣言の期間も今までで最長の1か月以上となったため、大幅な収入減に陥っている。飲食店とは異なり、当業界には明確な支援策もないため、苦慮している。ただ、緊急事態宣言が解除されれば、今よりも景気が良くなると期待している。
	○	観光名所（従業員）	お客様の様子	・当施設は景勝地にあるため、緊急事態宣言の発出に伴う休業が繰り返されており、非常に厳しい状態にあるが、5～6月の宣言時と比べれば、9月は営業中なのかを確認する問合せやどうすれば眺望観光できるのかといった問合せがとても多くみられた。実際に、駐車場がマイカーで混雑していたり、路線バスが増便などで対応している様子もみられるなど、前回の宣言時と比べて人の動きが増えてきている。
○	美容室（経営者）	来客数の動き	・緊急事態宣言はまだ解除されていないが、新型コロナウイルスの新規感染者数がかなり減少していることで、客が旅行や食事に出掛ける機会が増えてきている。そうした動きに伴って、美容室への来店頻度も上昇しており、数か月前と比べて人の動きが明らかに活性化している。	
□	商店街（代表者）	来客数の動き	・高齢者については希望者のワクチン接種がほぼ終了しているが、平日の日中の来街者数が増加する傾向はみられない。9月24日からプレミアム付商品券の発売及び利用が始まったが、目立った利用客の増加もみられない。ここ数日、当地の感染者数はゼロの日が続いているが、地元客の来街者は少ないままである。	
□	百貨店（営業販売担当）	来客数の動き	・5月後半から続く来客数の減少傾向が改善してこない。客も目的買いのみであり、買い回りがみられない状況が続いている。	

<input type="checkbox"/>	スーパー（企画担当）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染拡大が落ち着いてきているなか、自粛ムードが継続している都市部の店舗では売上が好調な反面、町村部の店舗では今一つ売上に勢いがみられない。消費行動もエリアによって2極化しており、まだら模様の様相を呈している。
<input type="checkbox"/>	スーパー（企画担当）	来客数の動き	・ワクチン接種率が向上していることで人流が増えてきているが、緊急事態宣言が9月末まで延長されたことから、来客数の伸び率が低いまま推移している。
<input type="checkbox"/>	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・緊急事態宣言が発出されたことで来客数が減少しているが、9月後半になり、たばこ値上げの話題が出てきたことで売上がやや回復している。全体的にはプラスマイナスゼロとなっている。
<input type="checkbox"/>	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・来客数が相変わらず前年を下回っており、低調に推移している。ただし、客単価が上昇していることで助かっている。景気が急激に良くなるという状況にはなく、既存の客を大事にしていくしかない。
<input type="checkbox"/>	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・消費者の行動自粛やイベントの縮小といった動きが続いている。飲食店などの外販先との取引も減少傾向が続いている。
<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・客の動きがやや悪いものの、新型車の導入など、話題に不足がないことから、受注量はどうにか確保できている。
<input type="checkbox"/>	自動車備品販売店（店長）	販売量の動き	・コロナ禍の状況が変わっていないことから、客の流れや購買意欲に大きな変化がみられない。
<input type="checkbox"/>	その他専門店 [ガソリンスタンド]（経営者）	販売量の動き	・緊急事態宣言中であることもあり、販売量に変化はみられない。
<input type="checkbox"/>	その他専門店 [造花]（店長）	来客数の動き	・コロナ禍以前の来客数に戻ってこない。
<input type="checkbox"/>	旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・当地のワクチン接種率が少しずつ上向いてきているが、いまだ緊急事態宣言中のため、客足が上向いてこない。新規予約客も観光以外を目的としている。
<input type="checkbox"/>	旅行代理店（従業員）	それ以外	・社会の雰囲気や政策、自治体の取組などに説得力がなく、明るい未来が見いだせない。政治面で大きな変動があったが、今後も期待はそうできない。
<input type="checkbox"/>	旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・ワクチン接種が進んでいるものの、旅行マーケットの需要が戻ってこない。唯一動いているのは教育旅行のみである。
<input type="checkbox"/>	タクシー運転手	来客数の動き	・コロナ禍の影響で観光客や地元客の流れも全くみられず、人の流れがない状況にある。緊急事態宣言下のため、どうしようもない状況に陥っている。緊急事態宣言が解除された後、状況がどのように動き出すのかを注視していきたい。
<input type="checkbox"/>	タクシー運転手	お客様の様子	・緊急事態宣言が延長されたことにより、9月のタクシーの稼働が前年から30%落ち込むなど、最低の状況となっている。
<input type="checkbox"/>	美容室（経営者）	販売量の動き	・8月の売上は前月及び前年を下回ったが、9月は前月や前年から5%以内の増加となっている。景気は多少良くなっているが、余り変わっていないと捉えている。
<input type="checkbox"/>	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・これまで新型コロナウイルスの感染拡大がなかなか収まらない状況にあったが、ここに来てようやく新規感染者数が減ってきている。ただ、消費についても、建築についても客のムードは良くない。
<input type="checkbox"/>	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・分譲マンションのモデルルームを訪れる客の動向をみると、2極化してきている。商談時間を必要としない即断即決型で経済的にゆとりのある客と、購入はしたいが経済面のことに慎重で意思決定にかなりの時間を要する客に極端に分かれている。
<input checked="" type="checkbox"/>	商店街（代表者）	販売量の動き	・青果物の収穫状況が非常に悪い。春先からの天候不順と7～8月の雨不足によって深刻な影響が生じている。

▲	スーパー（店長）	来客数の動き	・緊急事態宣言に伴って来客数が減少していることに加えて、前年実施されたプレミアム付商品券、Go To Travelキャンペーンのような施策もないことから、消費を刺激する要素がない。
▲	スーパー（役員）	販売量の動き	・食用油、小麦粉などを始め、商材が多数値上がりしているため、客の節約志向が強くなってきている。
▲	スーパー（従業員）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響で来客数の減少が続いているが、前年のような客単価の上昇がみられないため、売上が前年を下回っている。この傾向はしばらく継続することになる。
▲	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・車の在庫がかなり減っているなか、東南アジアの多くの国でロックダウンなどの対策が行われていることで、海外からの部品供給が滞っている。このため、生産量が販売量に追い付いておらず、納期が長くなっており、このことが売上にも影響している。こうした状況が新聞などで報道されていることもマイナスとなっている。
▲	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・新車の受注状況はさほど変わっていないが、新型コロナウイルスの影響で海外からの部品供給が止まっていることで、メーカーにおける新車の生産量が減少している。そのため、納車に遅れが生じており、売上が減少している。
▲	高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・書き入れ時だったにもかかわらず、インバウンドの入込はゼロが続いており、観光客も余りみられなかった。9月の大型連休はそこそこ観光客がみられたが、それ以外はほとんどみられなかった。まん延防止等重点措置が出たため、地元客の来店も余りみられず、景気としては下向きである。
▲	高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・コロナ禍前の2年前と比べると、売上が3割ほどの水準にとどまっているなど、景気はやや悪い。緊急事態宣言の延長を受けて、9月の後半も休業したため、不必要な経費は掛からなかったが、営業再開後はスタッフの接客意欲に差が生じることが懸念される。主要スタッフは10月から通常出社となるが、パートの出社についてはどうすれば良いのかが悩みの種である。
▲	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・緊急事態宣言によって人流抑制が呼びかけられていることで、客の心理面にも影響が生じている。
▲	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・お盆まではビジネス客、観光客のいずれも動きが活発だったが、北海道に緊急事態宣言が発出されたことで一気に人の動きが抑制傾向となった。現在も航空機の運休が拡大していることから、人の動きは回復していない。
▲	タクシー運転手	来客数の動き	・緊急事態措置が発出されている状況にあることから、飲食店からの注文が毎週減少し続けている。予約件数が減少しており、景気はやや悪くなっている。
▲	通信会社（企画担当）	競争相手の様子	・取扱店や大型商業施設などでの出張販売において、来客数が増加し、販売量も増加しているものの、競合他社の集客を下回っている。そのため、当社の契約が他社に奪われており、道東を除き契約数が増えつつある。
▲	美容室（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスへの感染を恐れて外出を控える客が多いことから、客の来店サイクルが大幅に長くなっている。
×	商店街（代表者）	来客数の動き	・緊急事態宣言が続いていることで、近くの飲食店が軒並み臨時休業するなど、自粛に拍車を掛ける状況となっている。商店街への人出がかなり減少している。
×	商店街（代表者）	販売量の動き	・緊急事態宣言下において新型コロナウイルス新規感染者数の減少傾向がみられるが、裏を返せば人流が減ったことの成果である。つまり、商業にとっては客足が減少し、商売が立ち行かなくなっていることでもある。そのため、商店街としては大きな落ち込みがみられた月であった。飲食店も休業や時短営業、酒類の提供停止などの要請によって大きな痛手を受けている。
×	一般小売店 [酒]（経営者）	販売量の動き	・9月中は緊急事態宣言下にあったため、売上はコロナ禍前と比べて85%減少している。

	×	スーパー（店長）	それ以外	・8月初めから新型コロナウイルスの新規感染者数が増え始め、8月中旬にまん延防止等重点措置が適用され、8月末に緊急事態宣言が発出されたことで、8～9月にかけて客足が大きく鈍り、大きな影響が生じている。
	×	衣料品専門店（店長）	販売量の動き	・スーツ需要がなくなって1年以上が経過し、底を打っているものの、回復しないまま推移している。
	×	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・当地の基幹産業である大手工場の撤退や漁獲量の低迷による影響がみられる。新型コロナウイルスが経済全体に影響を及ぼしているなか、車の生産活動にも大きな影響が出ており、販売量に大きなブレーキが掛かっている。
	×	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・緊急事態宣言が発出され、道内はもちろん道外からの入込も減少している。主だった観光施設の休業も相次いでおり、客足が遠のいている状況から抜け出せないまま、厳しい状況が続いている。
	×	スナック（経営者）	来客数の動き	・9月は休業しているため、何ともいえない状況にある。
	×	観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・緊急事態宣言が続いていることで、宿泊客数が大きく減少している。
	×	タクシー運転手	来客数の動き	・9月30日まで緊急事態宣言が延長され、飲食店の営業時間短縮、アルコールの提供停止要請が続いているため、夜間の飲食店や繁華街でのタクシー利用がほとんどみられない。売上は前年比でマイナス20%、コロナ禍前の前々年比ではマイナス60%と大きく落ち込んでいる。
	×	タクシー運転手	販売量の動き	・9月の売上は前々年の50%、前年の70%となっており、過去最悪を記録している。緊急事態宣言が発出されるたびに落ち込みがひどくなっており、回復速度も遅くなっている。現状は飲食、宿泊、交通などの一部業種の業績悪化にとどまっているが、今後は地域経済全体にも影響を及ぼすことが必至である。
	×	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・長引く緊急事態宣言の影響から、前年と比較しても著しく輸送量が減少している。
企業 動向 関連	◎	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・9月の販売量は前年比マイナス12%だったが、3か月前の6月の販売量は前年比マイナス46%だったことから、景気は良くなっている。
(北海道)	○	家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大が収まりつつあることから、景気は良い方向に転じている。
	○	輸送業（支店長）	取引先の様子	・上期の受注量が前年と比べて若干上向きにあることから、景気はやや良くなっている。
	○	その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	受注量や販売量の動き	・売上の推移をみると、前月までの勢いはないものの、依然として前年を上回る状況が続いている。公共工事の発注が順調に推移していることから、しばらくは拡大傾向が続くとみられる。
	□	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・前年と比べれば受注量は多少上向いているが、3か月前と比べると、状況はほとんど変わっていない。
	□	金融業（従業員）	取引先の様子	・足元の新型コロナウイルスの新規感染者数は漸減傾向にあるものの、9月一杯は緊急事態宣言下であり、経済活動の抑制が続いているため、コロナ禍の影響がみられた3か月前と状況は変わらない。
	□	司法書士	取引先の様子	・ワクチンを接種することで自粛が不要になるのかよく分からないこと、新型コロナウイルス変異株の発生もみられることなどから、景気判断が非常に難しくなっている。これからも新型コロナウイルスが経済全体に大きな影響を与えるとみられるが、ワクチン接種が進んでいることで景気も少しずつ上向くことになる。ただし、効果が現れるまでしばらく時間が掛かるとみられる。
	□	その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	取引先の様子	・緊急事態宣言期間中であるが、飲食以外の業種については健闘している。

	□	その他非製造業 〔鋼材卸売〕 (従業員)	受注量や販売量 の動き	・現場使用製品などのベース商材の動きが良くなく、内部での製作も少ない状況だが、大型受注案件の成約が増えており、売上自体は悪くない状況にある。
	▲	建設業 (従業員)	受注量や販売量 の動き	・今年度後半の案件の出方が鈍いことから、景気はやや悪い。
	▲	建設業 (役員)	受注量や販売量 の動き	・手持ち工事は天候にも恵まれ順調に進行しているが、新型コロナウイルスの影響で経済活動の停滞が長期化していることで、新規案件の引き合いが減るなど、受注競争が一層厳しさを増している。足元の受注実績は、完工高、利益のいずれも年度計画を下回っている。
	▲	輸送業 (営業担当)	受注量や販売量 の動き	・ここ数か月、本州向けの生乳の出荷量が伸び悩んでいる一方で、バター在庫量が積み上がっている。また、飲料関連は見込みよりも動きが少なく、紙パルプは原料の古紙不足の影響が出ている。砂糖や粉乳などの農産物は新物の入庫に備えて若干の荷動きが出始めているものの、総じてみれば、北海道から本州向けの物量が例年と比べて落ち込んでいる。今後、農産物の収穫繁忙期を迎えることから、その効果に期待したい。
	▲	司法書士	取引先の様子	・依然としてコロナ禍による営業活動の自粛が継続している。営業活動が低調にならざるを得ないため、景気が回復する要素がない。
	▲	その他サービス業 〔ソフトウェア開発〕 (経営者)	受注量や販売量 の動き	・スキルが低い人向けの仕事が減ってきている。
	×	—	—	—
雇用 関連 (北海道)	◎	求人情報誌製作 会社 (編集者)	求人数の動き	・9月の状況をみると、求人情数が前年から10%ほど伸びている。特に医療福祉、スーパー、小売、派遣などが堅調に推移している。ただし、それ以外についてはほぼ横ばいでの推移となっている。
	○	—	—	—
	□	人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・求人数だけをみれば堅調に推移している。経営者に話を聞くと、既存の業務を正確かつスピーディーにこなす人材も必要だが、新しい発想を持った人材を採用したいと考えている一方で、そのようなスキルの人材になかなか出会えないとのことである。コロナ禍が続くなか、会社組織が変わらなければ、今後生き残ることができないという経営者の危機感が読み取れる。
	□	求人情報誌製作 会社 (編集者)	求職者数の動き	・飲食業において、季節型の請負、派遣や短期の紹介などで職を求めている人材が多いようである。非正規の求職者数が収入を確保するための行動とみられ、こうした動きが活発化している。
	□	求人情報誌製作 会社 (編集者)	求人数の動き	・ここ数か月、大きな変化がみられない。緊急事態宣言が発出されると景気が落ち込み、解除されると盛り返すという動きが繰り返されている。
	□	職業安定所 (職員)	周辺企業の様子	・緊急事態宣言が続くなか、現状では特に改善したという話も、悪化したという話も聞いていないため、景気は変わらない。
	□	職業安定所 (職員)	求人数の動き	・当地における8月の有効求人倍率は0.83倍となり、3か月前との比較では0.01ポイントの改善にとどまっていることから、景気は変わらない。
	□	職業安定所 (職員)	それ以外	・8月の新規求人数が前年を上回っており、有効求人倍率が1.36倍となっている。ただし、今後、大手工場の事業撤退に伴って地域経済に影響が生じることが懸念される。
	□	学校 [大学] (就職担当)	求人数の動き	・新卒者の求人状況をみると、全体的に景気が上向きになっている傾向がみられるものの、飲食、観光、百貨店などでは先行き不安から採用の手控えが顕著である。また、コロナ禍のなか、業績が好調な業界も、採用計画は非常に伸長である。全体的な雇用動向としては、大きく変わっておらず、今後についても同様の状況がしばらく続く。

	▲	求人情報誌製作 会社（編集者）	求人数の動き	・緊急事態宣言が長引いているなか、企業や店舗などの先行き不透明感が強くなっている。特に飲食業や宿泊業、それらと関連する周辺業種の募集意欲が低調になっている。
	×	—	—	—